

≫≫ 新着資料案内 新しく受入れた資料をご案内いたします

■ 映画プログラム ■

『ドラゴンエイジ -ブラッドメイジの聖戦-』 『ものすごくなるさくて、ありえないほど近い』
 『Pina/ピナ・バウシュ 踊り続けるいのち』 『トワイライト・サーガ/ブレイキング・ドーン Part 1』
 『アフロ田中』 『戦火の馬』 『ミルク』

■ 松竹系 2月公演資料 ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
新橋演舞場	『鳴神』	○	○		
	『土蜘蛛』	○	○		
	『天衣紛上野初花 河内山』	○	○		
	『御存鈴ヶ森』	○	○	○	○
	『六代目中村勘九郎襲名披露口上』		○		
	『春興鏡獅子』		○		
	『ちいさんばあさん』	○	○		
平成中村座	落語立川流in平成中村座				
松竹座(大阪)	『慶安の狼 丸橋忠弥』	○			
	『大當り伏見の富くじ』			○	○
	『義経千本桜 すし屋』	○			
	『研辰の討たれ』	○			
南座(京都)	西本智実in南座 春一番如月大演奏會			○	○
	日本の祈り 歌舞音曲で綴る日本の心の原風景			○	
御園座	『義経千本桜 渡海屋・大物浦』	○			
	『女伊達』			○	○
	『雪暮夜入谷畦道 直侍』	○			
	『通し狂言 青砥稿花紅彩画 白浪五人男』	○			
博多座	『通し狂言 天竺徳兵衛新嘶』	○			
	『華果西遊記』	○		○	○
	『鬼揃紅葉狩』	○			

ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします

(新規登録資料案内 続き)

■ 他社公演資料 ■

アトリエヘリコプター	1月	『びんぼう君』プログラム
大阪新歌舞伎座	2月	『女たちの忠臣蔵』プログラム
紀伊國屋サザンシアター	2月	『静かな楽日 広津家三代』プログラム
劇場MOMO	2月	『中田くんのお見合い』プログラム
国立劇場小劇場	1月	『淡路人形芝居』プログラム
	2月	『第一七八回文楽公演』プログラム、床本
国立劇場大劇場	1月	『第八回伝統歌舞伎保存会研修発表会』プログラム
		『第36回俳優祭』プログラム
		『映像でたどる国立劇場の歌舞伎その2』プログラム
国立文楽劇場	1月	『文楽初春公演』プログラム
		『第二十五期文楽研修生発表会』プログラム
サンシャイン劇場	1月	『ロッキー・ホラー・ショー』プログラム
座・高円寺1	1月	『イエスタデイ』プログラム
ザ・スズナリ	1月	『体育の時間』プログラム、台本
シアタークリエ	2月	『ミュージカル ハムレット』プログラム
CBGKシブゲキ!!	1月	『押忍!!ふんどし部!』プログラム
下北沢OFF・OFFシアター	1月	『火葬』プログラム
下北沢シアター711	2月	『Sarachi 6』プログラム
新国立劇場小劇場	1月	『寿歌』プログラム
世田谷パブリックシアター	2月	『金色夜叉』プログラム
帝国劇場	1月	『新春滝沢革命2012』プログラム
鍬仙会能楽研修所	1月	『真野響子一人芝居 夢十夜』プログラム
俳優座劇場	1月	『カラマーゾフの兄弟』プログラム、台本
御園座	1月	『小林幸子特別公演』プログラム
明治座	2月	『五木ひろし特別公演』プログラム、台本
ル テアトル銀座	2月	『音楽劇 カラミティ・ジェーン』プログラム

■ 書 籍 ■

『寺山修司戯曲集3 幻想劇篇』	寺山修司 (著)	劇書房
『寺山修司戯曲集1 初期一幕物篇』	寺山修司 (著)	劇書房
『人形の家』	ヘンリック・イプセン (作)	劇書房
『花咲くチェリー ロバート・ボルト戯曲集』	ロバート・ボルト (著)	劇書房
『ブラック・コメディ』	ピーター・シェーファー (著)	劇書房
『真夜中のパーティ』	マート・クローリィ (著)	劇書房
『耳に蚤 疑いのとりこ』	ジョルジョ・フェドー (著)	劇書房
『メアリー・ステュアート』	ダーチャ・マライニ (著)	劇書房
『メソッド演技』	エドワード・D・イースティ (著)	劇書房
『メディア』	エウリピデス (作)	れんが書房新社
『ラヴ・レターズ』	A. R. ガーニー (著)	劇書房
『リー・ストラスバーグとアクターズ・スタジオの俳優たち』	リー・ストラスバーグ (著)	劇書房
『リアルシング』	トム・ストップード (著)	劇書房
『オール・タイム・ベスト映画遺産200 日本映画篇』		キネマ旬報社
『オール・タイム・ベスト映画遺産200 外国映画篇』		キネマ旬報社
『KAZE2010年鑑』		東京演劇集団風
『歌舞伎・新派・新国劇配役総覧 第7版』	小宮麒一 (編)	私家版

(新規登録資料案内 続き)

■ 演劇雑誌 ■

『AAC』2012年No. 71

『a a f 通信』2012年2月(32号)

『あぜくら』平成24年2月号

『舞踊芸術』2012年3月号

『Confettiかわら本』2012年3月号

『伝統文化新聞』2012年(69号)

『演劇界』2012年4月号

〔《特集》襲名 六代目中村勘九郎／小山三ひとり語り 襲名の儀／渡辺保 私の歌舞伎遍歴／仲春の舞台速報 《インタビュー》澤村田之助〕

『悲劇喜劇』2012年3月号

〔《特集》二〇一一年演劇界の収穫 《掲載戯曲》『サンパウロ市民』平田オリザ〕

『邦楽の友』平成24年3月号

『ほうおう』2012年4月号

〔《インタビュー》中村福助 《特集》新派四季暦 新派花形俳優たちの今年！〕

『JPL』2012年Winter No. 44

〔《特集》初春新派公演 小津安二郎監督映画「東京物語」より 山田洋次脚本・演出 東京物語〕

『上方芸能』2012年3月(183号)〔《特集》現状をどう見るか—上方芸能12ジャンル〕

『国立演芸場公演ガイド』平成24年3月号

『日本芸術文化振興会ニュース』平成24年3月号

『日本照明家協会雑誌』2012年2月号

〔《インタビュー》(株)ヴェントゥオノ代表取締役 志田博英さんに聞く 《特集》平成23年度全国舞台照明技術者会議 中部支部 技術者会議レポート〕

『日本舞踊』64巻3月号

〔《特集》秘曲・新曲サロン 大和楽 花だより／舞踊写真教室 新内 花 千姫〕

『O I S T A T 日本センターNEWS』2012 JANUARY Vol. 6

『大向う』平成24年3月号

『ラ・アルプ』2012年3月号

〔《特集》『解ってたまるか!』自然に、リアリティを持って喋る／『サウンド・オブ・ミュージック』／『壁抜け男』／ACTOR'S TIME vol. 27 八重沢真美〕

『シアターガイド』2012年4月号

〔《特集》大人計画「ウェルカム・ニッポン」松尾スズキ 阿部サダヲ&宮藤官九郎&池津祥子 稽古場レポ／「サド侯爵夫人」蒼井優&美波 野村萬斎&麻実れい&白石加代子〕

『テアトロ』2012年3月号

〔《特集》2011年舞台ベストワン・ワーストワン 《掲載戯曲》第2回宇野重吉演劇賞受賞作品「橋・分断」池神泰三／「なにもいらない—山頭火と放哉—」竹内一郎〕

『都民劇場』2012年2月号No. 704

『the座』2012年71号 [「雪やこんこん」]

■ 映画雑誌 ■

『アウラ』2012年207号

〔《インタビュー》向井理 《特集》ヒット作連発で人気再燃の兆し 徹底検証 ドラマ復権!!〕

『ドラマ』2012年3月号

〔《掲載シナリオ》NHK連続テレビ小説『カーネーション』第18、19、20週 渡辺あや 《特集》キャラクターでドラマを動かせ! 里島美和〕

『映画テレビ技術』2012年3月号

〔《特集》映画『RIVER』廣木隆一監督インタビュー／『聯合艦隊司令長官 山本五十六』のVFX／『はやぶさ 遙かなる帰還』のVFX／『此の岸のこと』外山文治監督に聞く〕

『映画学』2011年25号

〔《特集》論文：挑発、外見、そして朗らかな移行 エリック・ロメール作品論 玉田健太／映画的話であるとはいかなることか マンガにおけるフレームと視線の問題をめぐって 三輪健太郎〕

『映画芸術』2012年冬号(438号)

〔《特集》2011年日本映画 ベストテン&ワーストテン／日本映画の現在、その諸相を語る／追悼 石堂淑朗 《インタビュー》王兵〕

『映画撮影』2012 Feb No. 192

〔《特集》撮影報告：『おかえり、はやぶさ』藤澤順一／『はやぶさ 遙かなる帰還』阪本善尚／『僕達急行 A列車で行こう』沖村志宏／『セイジ 陸の魚』板倉陽子／『茜色の約束 サンバ d a 金魚』早野嘉伸〕

『映画時報』2012年2月号

〔《特集》2011年『全国映画概況』興収1811億91千万円、前年比82%／邦・洋13社の2011年配給実績／2012年「東映」「FOX」LINE-UP〕

『映画秘宝』2012年3月号

〔《特集》爆選！2010年度映画秘宝ベスト&トホホ10！！／HIHOはくさいアワード〕

『映画秘宝』2012年4月号

〔《特集》夢追い人の皮をかぶった破壊神 スティーヴン・スピルバーグの世界／B級映画の帝王 ロジャー・コーマン映画入門〕

『衛星劇場プログラムガイド』2012年3月号

『エキブ・ド・シネマ』2012年No. 186 [「汽車はふたたび故郷へ」]

『FLIX』2012年4月号

〔《特集》生田斗真&吉高由里子『僕等がいた』／2011BEST俳優&BEST映画／絶対のMUST SEE映画50本／堂本剛 in 『平安結祈 heianyuki』〕

『キネマ旬報』2012年3月上旬号

〔《特集》ロスト・チャイルド＝スピルバーグの大いなる旋回「戦火の馬」／西島秀俊／大予想&大放談！第84回アカデミー賞を語り尽くす／石井岳龍 フォーエバー・ヤング「生きてるものはいないのか」〕

『ムービー・スター』2012年4月号

〔《特集》完全ガイド『トワイライト・サーガ／ブレイキング・ドーン Part 1』／来日速報『アメイズング・スパイダーマン』／「glee グリー」〕

『NFCニューズレター』2012年2月-3月号

〔《特集》デジタル上映：現場からの報告／日本の映画ポスター芸術／現代フランス映画の肖像2〕

『日経エンタテインメント!』2012年3月号

〔《特集》女性アイドルの2012年計画／AKB48 前田敦子×大島優子／小泉今日子〕

『ピクトアップ』2012年4月号75号

〔《特集》佐藤健 変化の予感／松田翔太／生田斗真×吉高由里子／松山ケンイチ〕

『SCREEN』2012年4月号

〔《特集》第61回ゴールデン・グランプリ結果発表／第69回ゴールデングローブ賞授与式&ファッション／第84回アカデミー賞ノミネーション&大予想／オスカー候補の春休み公開作紹介〕

『シナリオ』2012年4月号

〔《掲載シナリオ》『僕達急行 A列車で行こう』森田芳光／『RIVER』廣木隆一 吉川菜美〕

『シナリオ教室』2012年3月号

〔《掲載シナリオ》第36回「創作テレビドラマ大賞」受賞作：大賞『最終特快』本河純子／佳作『迷えるウサギ』林日里／佳作『カブト虫の呼吸』泉政秀〕

『シネ・フロント』2012年2月号

〔《特集》「第4の革命 エネルギー・デモクラシー」＜対談＞カール・A・フェヒナー、伊藤千尋／キム・ギドク監督『アラン』／イ・チャンドン監督『ポエトリー』〕

「宇宙開発」映画の所蔵資料展示をいたします



休館明けの3月26日からは、映画「おかえり、はやぶさ」公開を記念して、「宇宙開発」をテーマにした映画の所蔵資料展示をいたします。フィクション、ノンフィクションさまざまな映画の資料を小さなケースいっぱい展示いたしますので、どうぞお楽しみに！

春期特別整理休館のお知らせ

平成24年3月10日(土)より3月25日(日)まで

資料整理のため休館いたします

3月26日(月)より 通常どおり開館いたします

専門図書館協議会イブニングセミナー「図書館の現場で実践する劣化・破損資料の補修」

日時：2012年2月22日 18:00～20:00

会場：日本図書館協会会館2階研修室

講師：岡本幸治（製本家・書籍修復家）

参加者：飯塚美砂、井川繭子

図書館では日常業務の中で所蔵資料の劣化や破損がたびたび起こる。当館でも破損のひどいものは業者に再製本に出したり、簡単なものであれば職員が直したりしてきたが、常に悩みの種であった。今回のセミナーは、昨年の東日本大震災で、落下によるページの角折れや裂断など、破損した資料を多く抱えているであろう悩める図書館員のために、修復の専門家を講師に迎えて行われたもので、図書館の現場で出来る資料補修の具体的な方法が聞けるということだったので、ぜひその技術を取得すべく職員2名で参加した。

今回は博物館や美術館等でおこなわれている保存修復とは異なり、壊れたり傷んでしまった本を、あくまでも本としての機能を回復する目的で行う修復である。まず本の状態を観察して、修復の優先順位、修復のレベル、外注に出すか館内で行うかの判断をする。

修復の際には本の構造や材質を考慮して行う必要があるので、製本の構造や綴じ方の種類などをスクリーンを使って説明があり、講師の先生が修復を指導している一橋大学社会科学古典資料センター貴重書保存修復工房の様子も紹介された。

その後、会場の中央に置かれたテーブルを参加者が取り囲むようにして実演が行われた。

補修には基本的に和紙と糊（正麩糊またはヤマト糊）を使って行い、粘着テープの類は使わないこと（化学糊が染みて紙が変質した跡は二度と糊が付かないので修復できない）や、紙の目（向き）を考慮して修復することなど、修復した後の状態も考慮して行うことが大切だと教えられた。そして、使用する道具の紹介とその使い方などの説明も交えながら、実際にページが破れたり、ページごとはずれてしまった文庫本を修復し再製本する作業を実演していただいた。

実演中はもちろんのこと、講義終了後も参加者から活発な質問が出て、それに対しても丁寧に説明していただいた。もっといろいろな修復の例を見たかったが、今回学んだことだけでもとても参考になったので、日頃の業務に生かして、出来るだけ自分たちでも修復が出来るようにしていきたい。館内修復の利点は、保存修復の知識を館内で蓄積していけることでもあるので、松竹大谷図書館の資料に適した修復を考えていきたいと思う。

● 図書館でさっそく実践してみました ●



ドリルで糸を通す穴を開ける



糸を穴に通して縫う



雑誌の再製本完成です



脚本アーカイブズ・シンポジウム
「失われた脚本・台本を求めて～文化リサイクルの意義」

日 時：2012年2月15日
場 所：国立国会図書館 新館講堂
参加者：須貝弥生

日本放送作家協会の理事長であった故市川森一氏は、テレビ放送50周年の平成15年に国会総務委員会で「脚本・台本は貴重な放送文化遺産であるが、多くのものが散逸し、日々失われつつある。これを管理、保存し、体系化することが急がれる」と発言し、超党派の賛意を得たことから、日本放送作家協会に「日本脚本アーカイブズ特別委員会」を発足させた。

脚本を所蔵している資料館や関係団体等に聞き取り調査を重ね、平成17年には文化庁と足立区の援助を得て北千住に「日本脚本アーカイブズ準備室」を開設した。脚本家、脚本家の遺族、俳優、その他関係者から脚本の寄贈を受け収蔵脚本を増やし、平成19年からは東京大学大学院情報学環とのコラボレーションで、デジタルアーカイブシステム構築も進めている。

平成23年、文化庁と国会図書館が締結した「我が国の貴重な資料の次世代への確実な継承に関する協定」で保存すべき対象として①テレビ・ラジオの脚本、②音楽・楽譜、③アニメ・まんが・ゲーム、があげられたこともあり、国会図書館でも脚本を収集することになった。

このような経緯を経て、この度、日本放送作家協会と国会図書館の共催でシンポジウムが開催された。

第1部の座談会は、山田太一（脚本家）、中園ミホ（脚本家）、藤村志保（女優）、奥山侑伸（放送作家）、司会に堀川とんこう（演出家）で、それぞれの立場での脚本への考え方、故市川森一氏への思いが語られた。テレビ草創期から約20年間の映像は失われたものが多く、残っている脚本からその様子を知るほかない。その脚本も散逸しつつある。市川森一氏が訴えた脚本収集の重要性を再確認した。

第2部のパネルディスカッションは、パネリストは長尾真（国立国会図書館館長）、木田幸紀（NHK理事）、岡島尚志（東京国立近代美術館フルムセンター主幹）で、吉見俊哉（東京大学副学長）の司会で行われた。

岡島氏はフィルムセンターのフィルム保存の使命について、木田氏は平成15年に発足したNHKアーカイブスについて、また放送文化に関する研究や調査資料を保存する放送文化アーカイブスについて語った。所蔵資料のデジタル化を進めている国会図書館の長尾館長は、一つしかないオリジナルのためにデジタル化が必要であり、それによって誰でも見られ、再利用ができるようになる。映像をデジタルで、脚本を文字データとして集めたい、と述べた。

脚本は映像作品の設計図とも言われるが、映像作品と脚本は兄弟ではあるが別の物で、映像作品と脚本は両方残されるべき文化遺産である。デジタルアーカイブズによって文化が蓄積され、再生される。文化もリサイクルされるのだ。

脚本アーカイブズは放送作家協会が中心となり、関係団体の協力、学術的技術の提供を受けながら、これから整備されていく。脚本の収集をしても一般公開はされていないし、ホームページで試験公開されているのは100冊ほどの脚本の書誌データと表紙の画像のみ。脚本の本文は著作権の処理が済まなくては公開することはできない。著作権処理に関して一番問題なのは、著作権所有者の連絡先がわからなくなってしまうものだ。オーファン（孤児）著作物と言われている。対策を講じるには法の改正を必要とする、とのことだった。著作権問題をクリアするのにあと何年かかるのかわからないが、少なくとも数年はかかるようだ。

映画・テレビの脚本を多数所蔵する当館も、協力できるところは協力していきたい。今後の日本脚本アーカイブズの動向が注目される。

編集・発行 公益財団法人 松竹大谷図書館 〒104-0045 東京都中央区築地 1-13-1 ADK松竹スクエア3階
Tel 03-5550-1694 <http://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/>